



の調査時間は8分とした。

- ・調査を終了したら、すぐに道の駅会議室に移動（これも熱中症対策）して、図鑑、ネット情報等で同定作業を行い、それでも同定に不安のある場合には専門家である川北裕之さんに相談して種名を特定した。

## 2, 調査結果

草刈り高さの違いによる昆虫相・植物相調査結果							
参加校：昭和学院・県立国府台高校・県立市川昂高校	日時	2024/7/31 9:35 ~10:30		各調査区	10分調査	調査人数	
	天気	晴れ or 曇り		A区	草丈 踝上 クローバ、イネ科	生徒9大人4	
	気温	調査開始 31 °C		B区	草丈 膝の高さイネ科	生徒9 大人5	
	湿度			C区	草丈 腰の高さイネ科	生徒 8大人4	
	風速	微風					
昆虫相							
科名	和名	個体数	備考	個体数	備考	個体数	備考
		A区		B区		C区	
バッタ科	マダラバッタ	0		0		0	
	コバネイナゴ	0		18		14	
	ツチイナゴ	1		0		0	
	ショウリョウバッタ	1		14		15	
	ショウリョウバッタモドキ	0		0		2	
	オンブバッタ	2		0		0	
ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	4		0		0	
キリギリス科	クビキリギリス	0		0		0	
	ウスイロササキリ	0		0		1	
コオロギ科	エンマコオロギ	3		2		0	
ヒバリモドキ科	ヤチスズ	0		0		0	
カマキリ科	オオカマキリ	0		0		0	
カメムシ類	ブチヒゲカメムシ	0		0		9	
コガネムシ科	マメコガネ	0		3		0	
クモ類	オスクロハエトリグモ	1		0		0	
	ナガコガネグモ	0		0		1	
飛行昆虫							
トンボ類	アオモンイトトンボ2, アジアイトトンボ4, チョウトンボ2、ウスバキトンボ3、ギンヤンマ1						
チョウ・ガ	キタキチョウ1, アゲハチョウ1, マエキツガ1						

### 3, 考察

環境省が行った令和4年度第3回「OECMの設定・管理の推進に関する検討会」の中で、参考資料として提出された「昆虫指標について」を見ると、今回の調査で出現したチョウトンボ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴについて、以下のように記述されており、この記述を参考に、考察を行った。

- ◆チョウトンボ：抽水植物が豊富な水際のある池の指標となる。捕食者でもあり、本種の生息は、良好な池の生態系を指標する。
- ◆エンマコオロギ：地表性・雑食性の大型種であり、分解的な側面がある。雑草が生え、草積みは石や倒木のあるような多様な草地環境の指標となる。
- ◆ショウリョウバッタ：国内最大のバッタであり、草地環境の指標となる。
- ◆ツチイナゴ：周辺に草地の存在が欠かせず、特に農地が残されているような地域が供給源となっている環境の指標である。

- (1)草丈に関してはA区は10~30cm、BとC区の差はこの時期は少ないが、C区にはところどころに1m位のイネ科草本が見られた。昆虫の個体数は、A区はBC区に比べて少ないことが分かった。
- (2)A区ではヒシバッタ、エンマコオロギ、オンブバッタが採集できた。ヒシバッタとエンマコオロギは草丈の低いところや地面が見えるところを好む昆虫である。
- (3)BC区でコバネイナゴとショウリョウバッタが多く採集できた。ともにある程度草丈の高いことを好む昆虫である。
- (4)C区で採集できたショウリョウバッタモドキは、ススキ、チガヤなどより草丈の高いことを好む昆虫である。市民で行った昨年度の同様の調査では採集できなかった種類である。
- (5)マメコガネはマメ科、ブドウ類、ヤナギ類を食し、ブチヒゲカメムシは、マメ科、キク科、イネ科を食すので、これらの植物がある程度残っていればこのような昆虫も生息することを示している。
- (6)除草の頻度・方法を変えて昆虫相、特にバッタ・コオロギ類を調べた結果、草丈の違いによって昆虫相と個体数の違うことがわかった。
- (7)上の(6)から、昆虫の多様性を担保するためには、一定の高さの草を段階別に残しておく必要があると考えられる。
- (8)草地に隣接して池・湿った場所があるため、トンボ類が多く採集できた。ギンヤンマはある程度開けた水面を好むトンボである。
- (9)チョウトンボはガマやイグサなどの挺水植物が繁茂し、森や林がある環境を好む。千葉県では一般保護生物に指定されている。このチョウトンボが今回採集されたことは、樹林地が隣接していることが、この調節池の生物相に影響を与えていることを示唆している。さらに、環境省のモニタリング昆虫指標「代表種20種」の1種に該当しており、良好な池の生態系を指標する昆虫である。

### 4, 今後の予定

- (1)2024年秋に同様の調査を、今回の調査に参加した高校生物系部活動の生徒が、国分川調節池緑地に近い4つの小学校（市川市立国分小学校、同曽谷小学校、同稲越小学校、同中国分小学校）の児童と共に行うつもりである。

(2)環境省の今年度の後期自然共生サイト登録申請を行い、もしこの地が自然共生サイトとして登録された時には、認定記念のイベント（講演会やシンポジウム）を行う予定でいるので、今回の調査結果を高校生たちに発表してもらいたいと考えている。

## 5. 参考文献

- (1)「昆虫指標について」：環境省が実施した令和4年度第3回「OECMの設定・管理の推進に関する検討会」の中で、紹介された資料。
- (2)槐真史 編 伊丹市昆虫館監修 2013 ポケット図鑑 日本の昆虫 1400①② 文一総合出版
- (3)槐真史 編 伊丹市昆虫館監修 2024 ポケット図鑑 日本の昆虫 1900①② 文一総合出版